

党幹部座談会

統一地方選 大勝利めざして

527



山口代表

西田実仁選挙対策委員長
4月の統一地方選には、
3000人近い公明党議員
の半数以上が挑む。また、
夏以降には東日本大震災の
被災3県（岩手、宮城、福
島県）で、いわゆる「東北
復興選挙」が行われる。い
ずれも極めて厳しい戦いだ
が、全員当選を何としても
勝ち取りたい。

山口那津男代表 7日付
の公明新聞で早稲田大学の北川正恭名誉教授が公明党に対し、「地方の声が国政や党本部に届く体制が確立されている。この強みを生かし、各地の公明党議員・会派が行っている善政を全国に広げてもらいたい」と期待を寄せていた。地域密着



石井幹事長



西田選対委員長

**地方議員
を中心とした
ネットワークの力が強み**

断じて勝利しよう！

**「大衆直結」の政治
地方議会から築く**

ここで東京都議1人、横浜市議1人、東京特別区、一般市議51人の計53人の地方議員が誕生した。56年、59年の参院選、59年の統一地方選を経て61年の公明政治連盟（公政連）・公明党の前身の結成につながった。北側一雄副代表 62年の

議会でも第三勢力となつた。その基盤があつて、『庶民・大衆の党』として 64 年に公明党が結党された。山口「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいく」。昨年の党大会では党創立者の

えよう。
高木陽介政務調査会長
コロナ禍で住民のニーズが
多様化し、地方政治の存在
感は高まっている。と同時に、
地方議員の質も問われ
てきている。同志社大学の
吉田徹教授が「公明党の政
策の特徴は、個人の具体的

**有権者の心に響く
候補の身近な実績**

による政策実現力
いる。だからこそ
ワークの“要”で
議員が挑む統一地
けられない。

は増して
ネット
ある地方
方選は負

で議員、党員、支持者のネットワークの力を發揮する。公明党の実践は「善政のモーデル」であり、その中核の存在が地方議員だ。公明党の強固なネットワークの基礎をさらに盤石にするためにも、4月の統一地方選に

中島義雄 全国地方議員団
会議議長（都議） 公明系の無所属議員が地方議会に初めて進出したのは、1955年4月の統一地方選。

公政連の第1回全国大会の講演から60年の節目を迎えるに当たって、この立党精神の意義を改めて確認し、立党精神の指針を示された。翌63年の統一地方選の結果、公政連の地方議員数が上昇潮の中で結党60年を迎えた。

員への期待は高い。さらに、
公明党的地方議員は、一人
の悩みや課題であつても、
そこには普遍的に社会全体
に通じる問題があるのでは
ないかとの意識を常に持つ
ている。

北側 きょう 17日で阪神
・淡路大震災の発生から28
年を迎える。また、3月11
日は東日本大震災から12年
だ。公明党は被災者の二一
死んで誰も足りず、也行、國

口昌 こうじょう (元公明)
二つ並んで。(元公明)

地域の声、公明が実現 地方議員を中心核に 不ツトワーカの力が強み

全議員が“候補者”的決意で党勢拡大を

いた実績だけに、訴えに迫力があり、有権者の心に響いていた。政治と住民の距離感を縮めていく努力は大切だ。「今、地域の人は何切だ。」